

【佳作】

「豊かな故郷」

七飯町立七飯中学校

2年 稲村 有虹

北方領土の問題。島民は漁業従事者が多かったということを知った。北方領土がソ連に占拠された時の悔しさ、自分たちの暮らしてきた家・海・船への愛情を忘れられないだろう。とても辛いと思う。

私の祖父母の家は八雲町落部にあり代々漁師をしている。わたしもホタテの養殖を毎年手伝っている。朝早くから夕方まで仕事がある。長時間、ホタテの稚貝に小さな穴を開ける作業。細かな仕事だ。気をつけないとホタテの貝殻で手を切ってしまうこともあるし、早朝、冬の冷たい水の中に手をさらす作業もある。船の上では重い貝ををたくさん持って忙しく仕事をしている。危険も多い重労働だ。漁師は、その家の男の人だけが働くのではない。お嫁さん、子ども、孫まで働く。元島民の人もきっと家族で力を合わせて頑張ってきたはずだ。そんな大切な故郷が奪われてしまったのだから。

調べ学習をしていく中で、元島民の78%が漁師だということ、世界三大漁場の中に北方領土が位置することを知った。鮭や鱒、昆布などたくさんの海産物がとれる北方領土はとても恵まれていると私は思う。祖父母が漁をしている噴火湾では今ホタテの不漁が問題となっている。苦勞して育てた稚貝も死んでしまうのだ。北大水産学部なども原因を探っているがはっきりとした答えはまだ出ていない。たくさんの人が将来への不安を抱いている。函館のイカ漁も過去最低の漁獲高の記録を更新してしまった。温暖化の影響で海水温の気温が上昇してしまった影響もあるのかもしれない。

確かに、魚の消費量はおちてきている。漁業は今のままでも充分だと考える人もいるかもしれない。しかし、それでもたくさんの海産物を採ることができる北方領土はとても魅力的だと思う。ホタテも中国や台湾からの需要が伸びている。日本では丁寧育てられ、加工された海産物の需要は高いのだ。北方領土で漁や養殖ができれば、国民においしい海産物を届けられるだけでなく、外貨を稼ぐこともできるだろう。さらに、漁師たちはロシアに漁船が拿捕されることを恐れなくてもよくなる。北方領土の返還は景気をよくすることにつながっていくと思う。

では、どのように返還してもらえればいいのか。ロシアからの島民が北方領土には住んでいる。その方々を島から強制的に追い出すことは難しいかもしれない。いろいろな問題が起こるだろう。しかし、その方々にいてもらって漁業に従事してもらえば、労働力が増える。ロシアには人手があり、素晴らしい漁場がある。日本には養殖の技術や加工のノウハウがある。必要な者が双方にあることに気がついた。北方領土の共同開発。そこから初めてもよいのではないだろうか。日本人の故郷の豊かさを守るために・・・。